

特別養護老人ホーム雪舟園

1 施設の課題と取組方針

(1) 『心豊かな暮らしづくり』

ア サービスの質の向上

課 題	24H シートを効果的な活用
現 状	24H シートの作成及び更新手順について全ユニットでの統一に向け取組を開始したところであるが、具体的な活用方法を含めユニットや職員により差違が生じている。
取組方針	・各職員が日々の支援において入居者個々への関わりを統一して実践できるようになるため、24H シートの更新手順や活用方法の標準化をすすめる。

課 題	信頼感と専門性を兼ね備えたサービス提供体制の構築
現 状	近年の入居希望者は、従来からの認知症、高次脳機能障害、精神疾患等を有している方に加え、90歳を超える方が増加している。また、入居時の終末期に関する意向確認においては、当園で最期を迎えたいと望む方がほとんどである。一方で、こうした方々に対するケアの知識や技術について全職員が十分に身につけているとは言い難い状況にある。
取組方針	・多様化する入居者の状態像や思いに沿って暮らしを支える介護が提供できるよう職員一人ひとりの感性と知識を磨き、それに伴った技術を培う環境を整える。

イ 利用者の暮らしの保障

課 題	重大事故の発生件数の減少
現 状	毎年度数件の骨折等の重大事故が発生しているが、その中には不可抗力によるものの他、介護職員の技術等が未熟なことや定められた手順を遂行しなかったことなどに起因する事故もあった。また、ヒヤリ・ハット報告により重大事故に繋がる蓋然性のある事象を適切に認識し、想像力を働かせ、それら事象の未然防止に努めることの重要性について職員個々への意識づけが十分に浸透していない。
取組方針	・ヒヤリ・ハット報告書の重要性を認識させ、発生事象の検証結果や具体的防止対策を周知徹底することにより重大事故の発生を減らす。 ・全ての介護職員が介護等マニュアルに従った適切な介護を実践できるよう計画的に研修を実施する。

課 題	防災計画及び事業継続計画の実効性の確保
現 状	平成 29 年 6 月 19 日付けの「水防法」及び「土砂災害防止法」の改正に合わせて園内の消防計画等の点検を行い、これらに基づいた防災訓練を実施した結果、災害時の行動計画について更なる見直しや検証の必要性があることが判明した。また、事業継続計画の実効性に関する検証が十分に行えていない。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防計画、防災マニュアル、事業継続計画について、実地訓練に基づいた検証を継続し、その実効性を担保する。 ・ 防災計画等について全職員及び近隣自治会等へ周知する。

ウ 福祉ニーズに即したサービス提供

課 題	地域へ向けた福祉・介護情報の発信拠点としての取組
現 状	当地へ移転後、地域住民を対象とした健康教室や園と地域の交流を目的とした秋祭りを実施することで園の存在については周知できているが、地域に向けた福祉・介護情報等を発信する取組が十分に行えていない。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域へ向けた福祉・介護情報等の発信に関するシステムづくりを行う。 ・ 居宅向けサービスも含めた情報発信の拠点としての役割を構築する。

課 題	実習受入機関としての実習指導カリキュラムの充実
現 状	年度を通じて中学校、高等学校、専門学校、一般から多数の実習生を受け入れているが、実習に関する園でのカリキュラムが確立されていないため、各ユニットでの指導内容に差違が生じている。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種実習の目的に即した実習カリキュラムを整備し、ユニット職員が同一水準で指導が行えるようにする。

(2) 『活力に満ちた職場づくり』

ア 人材の確保と定着

課 題	介護人材の安定的な確保
現 状	年度を通じて介護職員に欠員が生じ、職員個々への負担が大きくなっている。欠員の解消に向けて職員確保に努めているが地域の良好な雇用情勢もあり、直ちに充足することは困難である。また、有資格者の人員が得られても介護職員としての適性或職務遂行能力が十分でない場合もあり、万全な体制となっていない。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き実習の受け入れやハローワーク等との密接な連携により即戦力となる優秀な人材を確保する。 ・ 求職者に選ばれ得る働きやすい職場であることを積極的に発信する。

課 題	離職防止のための取組強化
現 状	少人数でシフトを組むユニット単位での勤務は、ユニット内での良好な人間関係を築きにくい面がある。また、ユニットによってはチームとしての動きが十分に確立されていないため、職員間やユニット間でのフォロー体制が十分機能しないことによる負担感により離職へ繋がる蓋然性がある。
取組方針	・職員間、ユニット間の連携を強化し離職ゼロを目指すため、ユニットにおける良好な人間関係を維持できる環境を整える。

イ 人材の育成

課 題	施設内での職員育成体制の構築
現 状	各ユニットの人員体制や指導体制の相違から、新人職員や中途採用者に対する統一した育成カリキュラムの確立・運用が困難であるため、当園における基本的な技術を習得した介護職員として勤務できるまでに要する期間に相当の差が生じている。
取組方針	・新人職員や中途採用者に対する短期間で統一的な初期教育を専属的に担う育成ユニットを創設する。

課 題	ユニット運営能力の均質化とフォロー体制の確立
現 状	ユニットリーダーのユニット運営能力の差違から、その運営状況に格差が生じている。また、ユニットリーダーを支える職員の配置・育成が不十分であることから、ユニットリーダーをフォローする運営体制が整っていない。
取組方針	・ユニット運営が適切に行えるよう、ユニットリーダーに求められる役割を明確にし、その役割が担えるよう研修等を実施する。 ・ユニットリーダー以外の職員の役割を整理し、ユニットリーダーを補佐できる体制づくりと次期ユニットリーダーの育成を進める。

ウ 職場環境の改善

課 題	職場におけるストレス軽減に向けた取組の強化
現 状	休憩時間であってもユニットから離れることなく、準備室等で過ごすことが多いため業務時間と休憩時間の区別が曖昧となっている。 また、一人勤務の時間帯が長く、職員間でのコミュニケーションが限定的であるため、ストレスが大きくなっている。
取組方針	・休憩時間の過ごし方の改善やそれに資する設備改善等を進め、職員がリフレッシュできる環境を整える。 ・メンタルヘルスに関する取組を強化するとともにストレス解消のための具

	体的方策を確立する。
--	------------

エ 業務の改善

課 題	適切な介護記録の作成に向けた取組の継続
現 状	介護記録の作成ルールに関する見直しを進め、マニュアル作成に取り組んだが、職員個々への作成ルールの周知と実践に至っていない。
取組方針	・研修等により介護記録マニュアルに沿った適切な記録が、短時間に且つ勤務時間内に行えるようにする。

課 題	時間外勤務の縮減に向けた取組の継続
現 状	慢性的な時間外勤務が発生しており、その縮減に向けた要因の調査・分析を行っているが、職員個々の意識改革や従前の介護記録ルールの見直しを含め、具体的な業務見直しの実行までには至っておらず、効果が発現されていない。
取組方針	・勤務時間に関する職員の意識改革及び業務の進め方に関する見直しを進め、時間外勤務を縮減する。

(3) 『快適な住まいづくり』

ア 計画的な施設・居住環境の整備

課 題	食事環境の見直し
現 状	食事に使用するテーブルや椅子の高さの調整ができず、自力摂取に向けた取組が十分に実践できていない。また、食事を楽しむための環境が十分に整っていない。
取組方針	・食事摂取動作の向上を図るとともに食事を味わう楽しみが持てるよう環境を整える。

課 題	居住スペースの環境管理の徹底
現 状	共同生活室等の清掃や居室内の清掃について、ユニット職員のみでは十分に行えていない。また、壁紙やエアコン、車椅子等の汚れやいたみが目立つようになり、適切な対応が必要である。
取組方針	・清掃員の業務範囲の拡大等により生活環境全般の清潔保持を行う。 ・介護機器等のメンテナンスを適切に行い、快適な暮らしを提供する。

(4) 『安定的な経営の基盤づくり』

ア 収支の安定化

課 題	紙オムツの支出見込みの適正な把握
-----	------------------

現 状	紙オムツの使用量や使用方法の点検・見直しは毎年度行っているが、複数のユニットで予定使用量を超過する状況がある。その原因はユニットでの数量管理や適切な使用方法が十分徹底されていないことにある。
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットにおいて紙オムツの使用量を管理する仕組みを構築する。 ・紙オムツの使用量の検証を行い、使用量や使用方法の適正化を図る。

課 題	備品等の適切な使用方法の周知による破損等の防止
現 状	施設備品等の破損が頻繁にあり、その都度修理や買い替え等が必要となっている。職員が取扱方法や使用方法等を十分理解していないことに起因する事象も多く発生している。
取組方針	・備品等の使用を適切に行い修繕費等の支出を抑える。

2 中期経営計画数値目標

(1) 利用率

事業名	定員	H28 実績	H29 見込	H30 目標	H31 目標	H32 目標
介護老人福祉施設	70 名	97.5%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
短期入所生活介護	10 名	92.9%	94.2%	93.0%	93.0%	93.0%
居宅介護支援	—	64 件/月	63 件/月	65 件/月	65 件/月	65 件/月
介護予防支援業務 受託件数	—	8 件/月	7 件/月	7 件/月	7 件/月	7 件/月

(2) 固定資産購入計画

(単位：千円)

固定資産名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
らくらくテーブル (新規)	816	816	833
電動ベッド (更新)	888	888	444
チルト型車椅子 (新規)	390	390	390
フルリクライニング車椅子 (更新)	540	540	540
スタンディングリフト (新規)	325	325	
リフトアップライザー (新規)	756	756	

(3) 修繕計画 (10 万以上～ 大規模修繕を除く)

(単位：千円)

工事名称	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
小破修繕 (1 件 10 万円未満合算額)	1,720	1,700	1,700
居室トイレ手すり設置 (10 部屋/年)	850	850	866